

## 基礎分野（15 単位）

科学的思考の基盤	情報の基礎	1 単位	15 時間
	統計学	1 単位	30 時間
	生活科学	1 単位	15 時間
	論理学	1 単位	30 時間
	倫理学	2 単位	30 時間
	心理学	1 単位	30 時間
人間と生活・社会の理解	教育学	1 単位	30 時間
	社会学	1 単位	30 時間
	人間関係論	1 単位	30 時間
	文化人類学	1 単位	15 時間
	英語 I	1 単位	30 時間
	英語 II	1 単位	15 時間
	体育 I	1 単位	15 時間
	体育 II	1 単位	15 時間

# 基礎分野 (15 単位)

## 1. 基礎分野の考え方

看護の対象は、社会の中で生活をしている人間である。個人が現在の生活に至る過程は個々様々であり、その経過の中で形成されてくる価値観も個人により異なり多様化している。看護にたずさわる者として、一人一人の人間の生命と人権を尊ぶ姿勢を基盤に、幅広い知識を持って人間を多角的に深く捉える必要がある。そのためには、知識と感性が豊かな人間として成長することが求められる。

少子超高齢社会、医療技術の進歩、医療提供の場の変化など、医療を取り巻く環境は変化している。そのような中で、国民は健康に関連する問題の解決に向けて、医療職に対し資質や能力の一層の向上を求めている。医療職の中でも対象者に、一番近い存在である看護職に対しての期待は大きい。期待に応えるためには、人に対する深い洞察力、人との相互作用の中から培われるコミュニケーション能力、自律して考え判断できる能力、創造的な発想のできる能力、先見的で柔軟な思考力、専門職としての倫理観の形成が必要となる。

そのため、基礎分野では社会生活を営んでいる看護の対象である人間に対する理解を深められる内容とする。また、科学的及び主体的な判断を身に付け、国際社会、情報社会に対応できる能力を養う内容とする。

## 2. 目的

看護の対象である人間を統合的に理解するための知識を学ぶと共に、科学的思考力、コミュニケーションの能力等を高め、主体的及び倫理的判断のできる能力を養う。

## 3. 目標

- 1) 科学的思考力を高めるための基礎的知識を学ぶ。
- 2) 社会の中で生活する人間を理解する。
- 3) 人間対人間の相互作用としてのコミュニケーションの基礎的知識を学ぶ。
- 4) 人権の重要性を学び、人権意識を持てる。
- 5) 看護職としての倫理的判断ができるための基礎的知識を学ぶ。
- 6) 国際化、情報化へ対応するための基礎的知識を学ぶ。

## 基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	情報の基礎 1単位 15時間	
開講時期	1年次 後期	
担当教員	上藤一郎・石井 渡	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>情報化時代の今日、医療・看護の分野においても電子化された情報（データ）を処理する技術は、必要不可欠なものとなっている。そこでこの授業では、情報をめぐるさまざまな技術の考え方や基本について学ぶ。具体的には、（１）医療・看護の現場における情報処理の役割、（２）医療・看護情報を扱う際のセキュリティと倫理上の問題、（３）医療・看護情報のデータベース化を取り上げる。到達目標は、前述（１）と（２）の基本を理解すること、（３）については演習を通じてデータベース作成の基本を身に付けることである。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	ガイダンス	講義（上藤）
2回目	医療と情報	講義（石井）
3回目	情報の倫理とセキュリティ	講義（上藤）
4回目	情報科学の基礎（１）－コンピューターとICT－	講義（上藤）
5回目	情報科学の基礎（２）－パソコンの基本操作－	演習・演習（上藤）
6回目	情報科学の基礎（３）－医療・看護データの作成－	演習・演習（上藤）
7回目	情報科学の基礎（４）－データベースの構築と活用－	演習（上藤）
8回目	終了試験	（上藤）
評価方法	毎回の課題（確認問題）と期末試験で総合的に成績評価する。	
受講生に対するメッセージ	授業の内容はそれほど難しいものではありませんが、予習・復習は欠かさずしてください。	
テキスト	特に指定しない。毎回、資料を配布する。	
参考書	授業中適宜指示する。	

## 基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	統計学 1 単位 30 時間	
開講時期	2 年次 前期	
担当教員	上藤一郎	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>医療・保健分野の研究では、データによる統計的実証分析が不可欠です。そこで、この授業では、データサイエンスの視点から、医療・保健分野における調査・分析に必要な統計学の基礎的知識を学びます。講義とコンピュータによるデータ解析（EXCEL を使ったデータ解析）の実習を通じて、データの特徴や性質を重視し、それらを具体的な問題解決の手段として活用できる能力を身につけてもらうことが目標です。なお、このような目標が達成できているかどうかを確認するため、授業の最後では、この授業の学習成果を PowerPoint によるスライドを使って班別にプレゼンテーションしてもらいます。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	データサイエンスの基本（1）－パソコンの基本操作－	講義
2 回目	データサイエンスの基本（2）－さまざまなデータ－	講義・演習
3 回目	データサイエンスの基本（3）－EXCEL の基本－	講義・演習
4 回目	データの集め方－ランダムサンプリング－	講義・演習
5 回目	統計データの集計（1）－単純集計－	講義・演習
6 回目	統計データの集計（2）－クロス集計－	講義・演習
7 回目	統計グラフの作成（1）	講義・演習
8 回目	統計グラフの作成（2）	講義・演習
9 回目	統計データの要約－平均と散布度－	講義・演習
10 回目	統計データに基づく推測（1）－平均値の区間推定－	講義・演習
11 回目	統計データに基づく推測（2）－平均値の検定－	講義・演習
12 回目	質的データの分析－カイ 2 乗検定－	講義・演習
13 回目	量的データの分析－回帰分析－	講義・演習
14 回目	パワーポイントの使い方	講義・演習
15 回目	パワーポイントによるプレゼンテーション	終了試験（上藤）
評価方法	コンピュータによる毎回のデータ解析の実習と授業最後のプレゼンテーション（50%） 期末テスト（50%）	
受講生に対するメッセージ	パソコンの操作や計算は面倒で煩雑なものですが忍耐強く取り組んでください。	
テキスト	上藤一郎・他 3 名『データサイエンス入門－Excel で学ぶ統計データの見方・使い方・集め方－』オーム社	
参考書		

## 基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	生活科学 1 単位 15 時間	
開講時期	1 年次 前期	
担当教員	坂上憲光	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>人間を取り巻く環境と日常の生活にみられる自然現象の法則性を学び、看護動作、看護技術を科学的に考える。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	看護と力学について具体例を中心に学ぶ	講義
2 回目	看護のボディメカニクスを筋力との関係から学ぶ	講義
3 回目	圧力の基本と水圧・気圧の看護への応用を学ぶ	講義
4 回目	圧力の応用・呼吸器と吸引の仕組みを学ぶ	講義
5 回目	点滴の原理と具体的な仕組みを学ぶ	講義
6 回目	ポンプとしての心臓と血液循環の物理を学ぶ	講義
7 回目	感覚器機能の物理的原理を学ぶ	講義
8 回目	体温制御のシステムを学ぶ	講義・筆記試験（坂上）
評価方法	筆記試験（100%）	
受講生に 対する メッセージ	看護の職務の中で必要な物理的基礎知識を理解しておいて欲しい。	
テキスト	看護学生のための物理学 第5版 医学書院	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	論理学 1単位 30時間	
開講時期	1年次 前期	
担当教員	高橋章仁	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>本講義は、論理に関する知識の習得のみを目指すものではない。論理は、自分の頭で考え、自分の言葉で語ることの補足としてはじめて意義をもつ。それゆえ、なるべく多くの文章に触れ、その論理構造を解析することで論理的に考えることの意義と方法を学ぶ。また、問題演習を通じて論理的思考力の強化と論理的伝達力の熟成を図る。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	論理とは何か	講義
2回目	接続の論理(1) 根拠と解説	講義と問題演習
3回目	接続の論理(2) 付加と転換	講義と問題演習
4回目	接続構造	講義と問題演習
5回目	論証の構造(1) 主題・問題・主張	講義と問題演習
6回目	論証の構造(2) 根拠と導出	講義と問題演習
7回目	演繹と帰納	講義と問題演習
8回目	否定の論理(1) 連言文と選言文	講義と問題演習
9回目	否定の論理(2) 全称文と存在文	講義と問題演習
10回目	条件構造	講義と問題演習
11回目	批判の論理(1) 意味と論証	講義と問題演習
12回目	批判の論理(2) 異論と批判	講義と問題演習
13回目	小論文の構造	講義と問題演習
14回目	小論文の書き方	講義と問題演習
15回目	終了試験	試験(高橋)
評価方法	筆記試験 70% ・ 課題提出内容/出席/授業態度 30%	
受講生に 対する メッセージ		
テキスト	『新版 論理トレーニング』産業図書	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	倫理学 2単位 30時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	竹之内裕文	
<p>科目のねらい・到達目標</p> <p>7つの看護領域（基礎、小児、母性、成人・老年、地域・在宅、精神、看護の統合と実践）でのグループ実習と連動して授業を進める。各グループからの実習報告に基づいて、また7つのテーマ（「対話」、「死別」、「倫理」、「死」、「在宅」/「病院」、「チーム」、「看護」）について、人権を尊ぶ姿勢をもち、対話を通じた探究を進める。それを通して本学の5つの教育目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を尊び、個人をかけがえのない存在として尊重する態度を養う。</li> <li>2. 看護の対象である人間を総合的に理解する能力を養う。</li> <li>3. それぞれの健康段階にある人に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。</li> <li>4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、実践できる基礎的能力を養う。</li> <li>5. 看護の実践者として向上心・研究心を養い、主体的学習態度を身につける。</li> </ol>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	ガイダンス（到達目標、具体的な進め方、成績評価、対話の準備） テキストをめぐる対話①（連載記事第2回）	講義・演習
2回目	実習の報告と対話①	講義・演習
3回目	実習の報告と対話②	講義・演習
4回目	実習報告をめぐるワールドカフェ	講義・演習
5回目	絵本をめぐる対話～『かないくん』を題材に	講義・演習
6回目	実習の報告と対話③	講義・演習
7回目	実習の報告と対話④	講義・演習
8回目	テキストをめぐる対話②（6章）	講義・演習
9回目	テキストをめぐる対話③（7章）	講義・演習
10回目	実習の報告と対話⑤	講義・演習
11回目	テキストをめぐる対話④（終章）	講義・演習
12回目	実習の報告と対話⑥	講義・演習
13回目	問いを囲む対話①～自宅、施設、病院の違い 問いを囲む対話②～「死」をめぐる	講義・演習
14回目	実習の報告と対話⑦	講義・演習
15回目	問いを囲む対話③～自分たちで問いを立てる、授業全体のふり返り	講義・演習 (竹之内)
評価方法	以下のポイントを合算して評価する。1) フィードバックシート：10点満点×4回＝40点、 2) 実習のグループ報告20点満点（チーム内相互評価）、3) 各グループの報告に対する評価（20点満点）、4) 全体対話での発言1回あたり5点。	

<p>受講生に 対する メッセー ジ</p>	<p>授業は、①実習の報告と対話（7回）、②実習報告をめぐるワールドカフェ（1回）、③絵本をめぐる対話（1回）、④問いを囲む対話（3回）、⑤テキストをめぐる対話（4回）により構成されます。実習の報告は、実習グループ（「チーム」）単位で行っていただきます。テキストをめぐる対話については、事前準備として、テキストを読み、フィードバックシートの設問に対して回答してきてもらいます。</p>
<p>テキスト</p>	<p>『死とともに生きることを学ぶ——死すべきものたちの哲学』（竹之内裕文著、ポラーノ出版）</p>
<p>参考書</p>	<p>『かないくん』（谷川俊太郎作・松本大洋絵、ぽぽにちの絵本）</p>

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	心理学 1 単位 30 時間	
開講時期	1 年次 後期	
担当教員	弓野憲一	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>質の高い看護には、人の心理学的な理解が欠かせない。この講義（一部演習）では、「心理学をなぜ学ぶか」から出発して、感覚・知覚、学習、記憶、知能と創造性、問題解決などの認知心理学的分野を学び、動機付け、葛藤と欲求不満についての行動的分野の理解を深め、発達と発達課題・発達障害について知り、自分のパーソナリティを測定し、悩みや心的な病気の発生メカニズムを理解し、それらの病気を克服するためのカウンセリングについて知る。さらによい人間関係をつくりだすための「様々なほめ言葉」をグループ演習の中で獲得する。</p> <p>各回の講義で出現する心理学的概念の基本的理解と応用をこの講義の達成目標とする。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	心理学とは： 心理学研究の歴史、心と体、なぜ心理学を学ぶのか？	講義
2 回目	感覚と知覚： 5 感、感覚と知覚の違い、知覚の文脈効果	講義
3 回目	学習： 学習の三学説、経験に全依存しない言語の学習	講義
4 回目	記憶： 記憶のモデル、強い記憶獲得、短期記憶の性質（実験）	講義・小実験
5 回目	動機づけ： その種類、欲求階層説、達成動機と民族・文化、	講義
6 回目	葛藤と欲求不満： 葛藤の種類、適応メカニズム、無意識と適応	講義
7 回目	知能と創造性： 測定法、両者の伸長法、両者の発達の違い	講義
8 回目	創造的問題解決： 新たな課題をブレインライティングで解決	講義・演習
9 回目	発達とは何か： 発達の理論、脳の発達、発達曲線	講義
10 回目	発達段階と発達課題： 知的発達の理論、段階相応の課題がある	講義
11 回目	障害と発達： 自閉症、AD/HD、うつ病、PTSD、燃え尽き症候群	講義
12 回目	パーソナリティ： 類型論と特性論、Y・G 性格検査演習	講義・演習
13 回目	ほめるの心理： 知能、創造性、共感性に関する褒め言葉を創造	講義・演習
14 回目	カウンセリングと傾聴： ロジャースの理論を学び傾聴訓練をする	講義・演習
15 回目	終了試験	終了試験（弓野）
評価方法	最終試験の成績（90%）と中間試験の成績（10%）を総合的に評価する。	
受講生に対するメッセージ	心理学を学ぶことによって、患者、周囲の人、自分自身についての理解が深まります。看護の世界でも役立つように、具体的な説明も加えますので、教科書の該当ページを予習して、講義に臨み、質問をすると、さらに学習が深まります。	
テキスト	心理学理論と心理的支援 中央法規	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	教育学 1単位 30時間	
開講時期	2年次 後期	
担当教員	鈴木和正	
<p>科目のねらい・到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学の中から看護に役立つ考え方や方法を見出し、広い視野で看護業務を遂行できる能力を養う。</li> <li>・教育問題や教育を人間の発達や社会との関係という点で考え、判断できるような基礎を培う。</li> </ul>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	イントロダクション（良い学びとは？過去の学びを振り返る、教育と看護について）	講義
2回目	教育の機会均等	講義
3回目	現代の学生支援制度の仕組み	講義
4回目	教職の専門性と現代的な課題	講義
5回目	日本の教育課程の変遷	講義
6回目	「生活指導」「生徒指導」の歴史的変遷	講義
7回目	学校における道德教育	講義
8回目	子どもを取り巻く環境と認定こども園	講義
9回目	ESD と STEAM 教育を軸とした教科横断学習	講義
10回目	西洋の教育思想と歴史	講義
11回目	近代教育制度の成立	講義
12回目	看護教育の歴史	講義
13回目	文献の検索方法、引用表記の方法	講義
14回目	レポートや論文の書き方	講義
15回目	レポート課題	講義まとめ（鈴木）
評価方法	授業への積極的な参加、レポート課題とし総合的に判断します。	
受講生に対するメッセージ	テキストだけでなくプリントも使用し、実生活と教育を結びつけて考えられるように授業を進めます。また参加型授業形式を取り入れますので積極的な発言を望みます。教育学の学習を通して看護や実生活に役に立つ考え方や方法を見出してください。	
テキスト	鈴木和正監修『教育センスをみがく「教育原理」』八千代出版、2025	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	社会学 1単位 30時間	
開講時期	1年次 前期	
担当教員	山本達也	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>現代の健康・医療においては、生物医学等の自然科学のみならず、社会科学の視点から捉えることが重要となってきています。</p> <p>本講義では、近代以降を生きる私たちを考える技術としての社会学の視座から、人間の行為、社会集団、現代社会に生きる私たちが直面する諸問題等を考えていくための方法を身につけます。その上で、現代社会の中の健康・病気と医療を支える当たり前を解きほぐす視点を学習・習得します。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>① 社会学の基礎レベルの概念と理論に関する知識を身につける。</p> <p>② 社会問題を分析するための基礎レベルの知識を身につける。</p> <p>③ 現代社会における健康・病気・医療（教科書各章の内容）について、社会学の視座から述べるができる。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	ガイダンスー社会学とは？なぜ社会学を学ぶのか？	講義
2回目	近代化の光と影①脱魔術化と鉄の檻（ウェーバー）	講義
3回目	近代化の光と影②自殺する理由の変遷（デュルケム）	講義
4回目	近代化の光と影③モノが私たちを自由／不自由にする（マルクス）	講義
5回目	日常の中の規範と社会①「こんにちは」が意味するもの（ゴフマン）	講義
6回目	日常の中の規範と社会②思い込みの裏側（エスノメソドロジー）	講義
7回目	人間ドックと「リスク」（ベック）	講義
8回目	個人と社会をどう考えるか（イギリス社会学）	講義
9回目	私たちが暮らす社会とは？（フーコーとドゥルーズ）	講義
10回目	他人と比べることで私は「私」になる（ブルデュー）	講義
11回目	変わり続けることのしんどさ（バウマン）	講義
12回目	自己責任・精神医療・魂の統治（ローズ）	講義
13回目	「みんな」という地獄／希望（精神分析的 sociology）	講義
14回目	自他をケアすることー贈与と医療	講義
15回目	終了試験	筆記試験（山本）
評価方法	終了試験 100%	
受講生に 対する メッセー ジ	基本的に座学方式で進めますが、必要に応じてグループ・ディスカッションを行ってもらいます。「自分で考える」力を身につけていきましょう。	
テキスト	『系統看護学講座 基礎分野 社会学』医学書院 毎回、授業資料を配布します。	
参考書	大澤真幸『社会学史』講談社現代新書	

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	人間関係論 1単位 30時間	
開講時期	1年次 後期	
担当教員	守野 剛史	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>心理学の概念や理論を基礎として、様々な視点から「人間関係」について学ぶ。人間関係を構成する自己と他者について、他者との関係形成や他者から受ける影響、さらに組織や集団の中で生じ得る葛藤や相互作用を通して、人が他者と人間関係を築く際の態度や行動について理解を深める。また、人権を尊ぶ姿勢を持ち、幼児から高齢者まで発達段階や環境の違いを踏まえ、多様な患者およびその家族と接する際に必要なコミュニケーションスキルの基礎を身に付ける。多職種連携・協働における人間関係の理解を通して、看護師として留意すべき点について学ぶ。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	人間関係論の基礎と看護における重要性	講義・演習
2回目	自己理解と自己概念	講義・演習
3回目	他者理解と勧請認識	講義・演習
4回目	コミュニケーションの基本構造	講義・演習
5回目	看護における傾聴と共感	講義・演習
6回目	アサーティブコミュニケーション	講義・演習
7回目	看護現場での対人ストレスと感情コントロール	講義・演習
8回目	人間関係と発達段階（乳児期～老年期）	講義・演習
9回目	発達障害と看護	講義・演習
10回目	愛着理論と看護	講義・演習
11回目	患者を支える人間関係	講義・演習
12回目	家族理解に関する人間関係（患者家族・障害をもつ家族）	講義・演習
13回目	組織における人間関係（チーム医療と多職種連携と協働）	講義・演習
14回目	看護における対人援助技術の統合	講義・演習
15回目	終了試験と結果の解説	筆記試験（守野）
評価方法	演習のショートレポート 30%・終了試験 70%	
受講生に対するメッセージ	人間関係は普段の生活にあるものです。本授業では、専門職としての人間関係の見方や作り方について講義と演習を中心に学び、自己理解や人との間で起きる気持ちの変化などについて体験的に学習します。	
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	文化人類学 1単位 15時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	山本達也	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、看護という実践者が文化人類学という学際的な視野を持つ。</li> <li>・文化の違いによって異なる病気・死に対する考え方を理解し、医療実践の際に資する見識を身につける。</li> </ul>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	序論・文化人類学とは？	講義
2回目	文化に優劣はある？ 文化進化論と文化相対主	講義
3回目	チベット医学から西洋医学を捉え返す	講義
4回目	呪術的想像力と医療	講義
5回目	死と向き合う多様な医療のあり方—看取りから考える	講義
6回目	近代西洋医療は普遍的か？①	講義
7回目	近代西洋医療は普遍的か？②	講義
8回目	終了試験	筆記試験（山本）
評価方法	筆記試験 100%	
受講生に対するメッセージ	教科書のみならず、インドやネパールでの経験を元に授業を進めていきます。楽しく学んでいきましょう	
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院	
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	英語 I 1 単位 30 時間	
開講時期	2 年次 前期	
担当教員	河村道彦	
<p>&lt;科目のねらい&gt;</p> <p>看護・医療現場で必要とされる英語の基礎力の向上を目指す。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○看護師として適切な態度で英語を用いて意思疎通を図ることができる</li> <li>○基本的な文法事項を理解し、看護・医療領域の話題に活用できる。</li> <li>○看護・医療にかかわる基本的な語彙の意味を理解できる。</li> <li>○医療現場において患者と英語で簡単なやりとりができる。</li> </ul>		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	授業概要 および Unit 1: Power of language	講義・演習
2 回目	Unit 2: Don't worry.	講義・演習
3 回目	Unit 3: How may I help you	講義・演習
4 回目	Unit 4: How are you feeling?	講義・演習
5 回目	Unit 5: Could you fill in this medical questionnaire?	講義・演習
6 回目	Unit 6: Take the elevator, please.	講義・演習
7 回目	Unit 7: What are your symptoms?	講義・演習
8 回目	まとめ・中間試験	講義・演習・試験
9 回目	Unit 8: Where does it hurt?	講義・演習
10 回目	Unit 9: How long have you had these symptoms?	講義・演習
11 回目	Unit 10: I'm going to take a blood sample.	講義・演習
12 回目	Unit 11: Let me take your vital signs.	講義・演習
13 回目	Unit 12: Your surgery will be tomorrow.	講義・演習
14 回目	Unit 13: There are three kinds of medicine.	講義・演習
15 回目	まとめ・期末試験	講義・演習・試験 (河村)
評価方法	筆記試験の成績を基本とし、これに平常点（授業内外での取り組み）を加減します。 中間試験 50%・期末試験 50%・平常点 +/-10%	
受講生に 対する メッセージ	積極的な授業参加を期待します。	
テキスト	Maki Inoue & Toshiya Sato. 2019. <i>Lifesaver: Basic English in medical situations</i> . New edition. Cengage Learning.	
参考書	英語辞典（看護・医療用語の語義を検索できるもの）	

授業科目及び時間数	英語Ⅱ（オーラルコミュニケーション） 1単位 15時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	ピーター・ハーディケン	
<p>&lt;科目のねらい・到達目標&gt;</p> <p>この授業は、学生が将来の職業である看護において、英語での口頭コミュニケーション能力を向上させることを目的としています。</p> <p>私たちの共通の目標は、クラス全員が英語のリスニングとスピーキングのスキルを成長させ、向上させることです。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	<p>Course introduction, meeting your teacher, getting to know your classmates, classroom English, listening instruction / practice</p> <p>宿題:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 1 Listening (Dialogue) p. 16 – Fill in the blanks</li> <li>・Preparation for quiz on “Look at This” (p.17) and “Do you know” (p.19) vocabulary</li> </ul>	講義・演習
2回目	<p>Unit 1: Hospital Departments</p> <p>Quiz 1: Pair and group speaking activities</p> <p>宿題:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 2 Listening (Dialogue) p. 20 – Fill in the blanks</li> <li>・Check your understanding activity</li> <li>Preparation for quiz on “Look at This” (p.21, Occupations)</li> </ul>	講義・演習
3回目	<p>Unit 2: Application Forms</p> <p>Quiz 2: Pair and group speaking activities</p> <p>宿題:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 3 Listening (Dialogue) p. 24 – Fill in the blanks</li> <li>・Check your understanding activity</li> <li>Preparation for quiz on “Look at This” (p.25, Body Parts)</li> </ul>	講義・演習
4回目	<p>Unit 3: Parts of the Body</p> <p>Quiz 3: Pair and group speaking activities</p> <p>宿題:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 4 Listening (Dialogue) p. 29 – Fill in the blanks</li> <li>・Check your understanding activity</li> <li>Preparation for quiz on “Regular and Irregular Verbs” (p.31)</li> </ul>	講義・演習
5回目	<p>Unit 4: Illnesses</p> <p>Quiz 4: Pair and group speaking activities</p> <p>宿題:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 8 Listening (Dialogue) p. 55 – Fill in the blanks</li> <li>・Check your understanding activity</li> </ul>	講義・演習
6回目	<p>Unit 8: Hospital Directions and Instructions / Pair and group speaking activities</p> <p>宿題: 復習（授業内指示）</p>	講義・演習

7回目	学期全体の復習活動	講義・演習
8回目	終了試験	終了試験 (ハーディケン)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業参加：50% <ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の積極的な参加（10%）</li> <li>授業への準備（毎週の宿題の完了）（10%）</li> <li>毎週のクイズとその完了（30%）</li> </ul> </li> <li>・ 期末試験：50%</li> </ul>	
受講生に 対する メッセージ	<p>※必須事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レッスンプランにそった CD を使った予習</li> <li>・ 授業中の日本語の使用禁止</li> </ul> <p>※必要な準備・用具</p> <p>授業では、筆記用具、教科書、ルーズリーフ用紙またはノート、そしてスマートフォンやその他のデバイスへのアクセスが必要です。</p> <p>※重要なポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ ・英語での参加: 授業中は積極的に参加し、私やクラスメートと英語で話すことを期待します。ただし、日本語を話すように指示された場合は例外です。これは皆が望んでいることです。このお願いを無視し、英語を使う機会があるのに試みない場合、授業参加の評価点を失います。</li> <li>□ ・宿題: 毎回の授業に備えてリスニングやその他の宿題を行い、ほとんどの週で行うクイズの準備も必要です。詳細は以下のスケジュールをご覧ください。</li> </ul>	
テキスト	「ホスピタルイングリッシュ Vital Signs」 南雲堂	
参考書		

基礎分野 授業計

授業科目及び時間数	体育 I 1 単位 15 時間	
開講時期	2 年次 前期	
担当教員	須田裕之	
<p>&lt;ねらい・到達目標&gt;</p> <p>健全な身体と精神を養うために、運動やスポーツを通して、筋力や筋力の柔軟性を高めるとともに、仲間と協力することや最後まで諦めない気持ちなど、精神面の充実を図る活動を行う。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	自己紹介・脚腰づくり・体力づくり	実技（須田）
2 回目	ストレッチ・バレーボール練習・バレーボール	実技（須田）
3 回目	ストレッチ・バスケットボール練習・バスケットボール	実技（須田）
4 回目	ストレッチ・野球練習・野球	実技（須田）
5 回目	ストレッチ・サッカー練習・サッカー	実技（須田）
6 回目	ストレッチ・キャッチボール・ドッチボール	実技（須田）
7 回目	ストレッチ・ポートボール練習・ポートボール	実技（須田）
8 回目	スポーツ大会	実技（須田）
評価方法	実技試験やゲームにおける記録などを参考にし、学習態度や参加意欲を重視する。	
受講生に対するメッセージ		
テキスト		
参考書		

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	体育Ⅱ 1単位 15時間	
開講時期	3年次 前期	
担当教員	羽根田三生	
<p>&lt;ねらい・到達目標&gt;</p> <p>運動を通して健全な身体と精神を養い、ストレッチで筋力の柔軟性と筋力を高めるとともに、ケガの予防及び心身のリラクゼーションにも効果的であることを学ぶ。また、過度の肉体労働やスポーツの前後における柔軟体操として知識の習得と基礎体力作りを行なう。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	ウォーミングアップ・身体のバランスと体力診断・リラクゼーション	実技（羽根田）
2回目	ウォーミングアップ・上半身ストレッチ・リラクゼーション	実技（羽根田）
3回目	ウォーミングアップ・お腹回りストレッチ・リラクゼーション	実技（羽根田）
4回目	ウォーミングアップ・背中ストレッチ・リラクゼーション	実技（羽根田）
5回目	ウォーミングアップ・下半身ストレッチ・リラクゼーション	実技（羽根田）
6回目	ウォーミングアップ・上半身ストレッチ・リラクゼーション	実技（羽根田）
7回目	ウォーミングアップ・お腹回りストレッチ・リラクゼーション	実技（羽根田）
8回目	テスト・リラクゼーション	終了試験 （羽根田）
評価方法	授業態度と理解力・出席状況、実技等による総合評価	
受講生に 対する メッセー ジ		
テキスト		
参考書		